

# 国際研30周年記念 世界遺産ホイアン日本橋展

昭和女子大学国際文化研究所は、1992年5月の設立から30年を迎えました。これを記念し、本学光葉博物館で、10月25日から11月29日まで「世界遺産ホイアン日本橋展」を開催します。これまで、多くの大学・研究機関・技術者とともに、ベトナムのホイアン町並み保存プロジェクトに取り組み、1999年12月にホイアンはUNESCOの世界文化遺産に登録されました。登録後も、ホイアン日本祭りをプロデュースし日本各地とホイアンとの国際交流を推進、さらにチャム島の観光開発支援、現在もホイアン日本橋の修復工事に協力しております。

ホイアンはベトナム中部ダナン近郊にある



港町です。海流と季節風の関係から古来より日本・中国とヨーロッパをつなぐ結節点で、アジア交易の重要な貿易港として発展してきました。大航海時代には、日本人町、中国人町、さらにはポルトガルやオランダの商人や宣教師

国際文化研究所とホイアンの歩み	
1992年5月	文化庁からの要請で国際文化研究所設立
1993年3月	町並み保存調査開始
1996年8月	修復保存した貿易陶磁博物館の開館
1999年12月	ホイアン世界文化遺産に登録
2000年10月	昭和女子大学で「世界遺産ホイアン展」開催
2003年8月～現在	「第一回ホイアン日本祭」をホイアン市と共催年1回、継続して日本祭りは開催されている
2016年～8年	ホイアン・チャム島観光開発支援
2022年～	ホイアン日本橋修復工事後の協力

も居りました。それ以前は、チャンパ王国の海のシルクロードの拠点、さらに古くはサフィーン文化も栄えていました。これらの遺跡は、ベトナムの古い町の風情を今に伝えています。

ホイアンと日本の関係を紐解くと、16世紀半ばには、日本の豪商たちが朱印船で訪れるようになり、中国商人の唐人町と並んで、日本町が成立しました。この日本町時代に建設されたと伝えられるのが、今回の展覧会で紹介



## 第15回昭和女子大学 女性文化研究賞(坂東眞理子基金)

男女共同参画社会の推進、女性文化研究の発展に寄与する研究書を顕彰する「女性文化研究賞」は、坂東眞理子総長が「労多く報われることが少ないが、世の中を変える力のある本を書くという作業を応援したい」と著書の印税などを寄付して設立した坂東眞理子基金により運営、前年に刊行した単行本を対象に学外有識者を含む委員会で選考しています。

第15回女性文化研究賞は、佐藤文香一橋大学教授の『女性兵士という難問：ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学』（慶應義塾大学出版会）へ贈呈されました。同書は、2004年刊行の『軍事組織とジェンダー―自衛隊の女性たち』から18年を経て、ジェンダーの視点



写真 前列左から 坂東眞理子総長、佐藤文香氏、遠藤由紀子非常勤講師、武川恵子女性文化研究所長

### 学報委員会から

委員長 石塚 そよか(初等教育学科3年)

学報委員会では、取材や執筆活動を通じて、自分の知らなかった世界・新しい人との出会いを沢山得る事が出来ます。私たち「学生だからこそ」経験できること、人と人との繋がりを通じて得られるものを大切にして、今後も発信していきます。

【学報委員会】歴史ある大学新聞「昭和学報」を執筆する学生有志による委員会です。昭和学報を年2回発行するほか、記事を大学ホームページに掲載しています。

第634号 2023年11月1日

昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57  
編集発行人 学校法人 昭和女子大学広報部

# 昭和学報

## SHOWA GAKUHO

# 学びの環境をデザインする 昭和女子大学

昭和女子大学 学長

## 金尾 朗

2023年も様々な事件、事象、現象が社会、世界において絶え間なく起こっています。一方で、我々の周りは日々少ずつ変化しながらも昔ながらの面影を保ちつつ、ほとんど変わらない側面も垣間見ることが出来ます。このような多様な世の中の流れの中で、大学での4年間で何を学んで、何を自分の中に貯めていくかについては人それぞれの思いがある

のではないでしょう。昭和女子大学はこれらの様々な思いを受け止めて、じっくり学べる空間・環境を作っていくことを心がけています。様々な専門の研究・教育、グローバル、プロジェクト型学修、キャリア教育、そしてデータサイエンス副専攻の設置はそれらの表れでもあります。同時に注力しているのはそれらを学ぶ環境の構築です。

現代の学びは、ICTの空間のみならず、実際に様々な人に接し、その経験、知識を持って、

のではないでしょう。

昭和女子大学はこれらの様々な思いを受け止めて、じっくり学べる空間・環境を作っていくことを心がけています。様々な専門の研究・教育、グローバル、プロジェクト型学修、キャリア教育、そしてデータサイエンス副専攻の設置はそれらの表れでもあります。同時に注力しているのはそれらを学ぶ環境の構築です。

現代の学びは、ICTの空間のみならず、実際に様々な人に接し、その経験、知識を持って、

No.1

## 全国女子大 1位3冠

全国645進学校調査「進路指導教諭が勧める大学」

「面見が良い大学」  
全国女子大1位(4年連続) / 全国10位

「グローバル教育に力を入れている大学」  
全国女子大1位(2年連続) / 全国20位

「就職に力を入れている大学」  
全国女子大1位(2年連続) / 全国9位

## 昭和ボストン学長 MESSAGE

昭和ボストン 学長

### ブルース・ストロナク

私が今年の4月に昭和ボストンの学長に就任して6か月以上が経ちました。この半年



# SHOWA BOSTON

は、私にとって素晴らしいものでした。夏には昭和小学校の生徒たちや他大学からも参加者を募るサマーセッションに約200名が参加し、この秋はコロナ収束後最大となる230名を超える学生がボストンで留学生活を送っていることをうれしく思います。

昭和ボストンは35年前の1988年7月7日に、日本の女子大学初の海外キャンパスとして創設されて以来、日本高等教育のグローバル化に貢献してまいりました。教育のグローバル化は、今後10年間、日本の大学にとって発展の鍵であり、グローバル化した世界で生きていく新しい世代の日本人が活躍するための鍵でもあります。また、日本経済の発展と世界における国力を維持するため、日本には時代をリードする新しい世代が必要であり、昭和ボストンはそういう人材を教育するためにあります。これからはどのような分野で活躍するにしてもグローバルな視点が必要とされるでしょう。

昭和ボストンの学生たちはすでに現地の大学、ビジネスや非営利団体と関わり、アメリカについて学び、地元貢献していますが、私は昭和ボストンを昭和女子大学の海外拠点としてのみならず、ハイレベルでの日米相互理解、合同学習や研究の場にしていきたいと考えています。

昭和ボストンが日米関係発展と日本のグ

### INDEX

- ごあいさつ 1
- グローバル 2
- キャンパスライフ 3
- 研究 4



そして、本学はそれらが実現できる空間・時間を提供し続けていきます。

### 科研費

KAKENHI

### 教員の研究

#### — 2023年度「科学研究費等助成事業」に採択された研究 —

**新規採択研究**

**基礎研究(C)**

- ・日米大学隣接環境での複数言語使用の実態分析・語学教育への応用を目指して — 竹田 ら 特命准教授
- ・表象を契機とした組織行為に関する理論的・実証的研究 — 高木 俊雄 教授
- ・障害者のエンプロイビリティ向上に向けたキャリアマネジメントモデルの構築 — 根本 治代 准教授
- ・唾液腺モデル培養細胞を用いた簡易な唾液線刺激指標と評価方法構築の試み — 高尾 哲也 教授
- ・食品コストと食品および食事の質との関連：健康格差解決のための食品選択法の構築 — 小西 香苗 准教授
- ・自閉スペクトラム症の感覚の特徴に関わる生活上の困難とニーズの解明 — 木村 あやの 准教授
- ・ハーベキスは医薬品に影響を与えるか？—薬物代謝酵素をターゲットとして考える — 横谷 馨倫 専任講師
- ・アストロサイトの形態的成熟とタイリングを誘導する神経細胞とのクロストーク — 林 真理子 准教授
- ・全身を用いた身体運動における実態および鏡像視覚フィードバックの利用特性 — 山中 健太郎 教授
- ・若年女性の瘦身プレッシャーに対して認知行動療法を取り入れた栄養教育教材の開発 — 星 玲奈 専任講師

**若手研究**

- ・地域包括ケアシステムの効果的な運用に向けた手法と姿勢に関する研究 — 熊谷 大輔 専任講師

**研究成果公開促進費(学術図書)**

- ・日本人のモンゴル抑留の新研究 — ボルジギン 呼斯勒 教授

**研究成果公開促進費(ひらめき☆ときめきサイエンス)**

- ・光らせてみよう、プレートで育てる神経細胞と仲間たち — 林 真理子 准教授
- ・食品と病気の因果関係を探る—DOHaD研究?って、どんな研究 — 小西 香苗 准教授

**研究活動スタート支援**

- ・『源氏物語』の受容・享受—呼称表現に注目して — 鶴岡 祐江 准教授
- ・だしの摂取が脂肪組織を介した熟産生と肥満に及ぼす影響 — 小泉 美和子 専任講師

**基礎研究(B)**

- ・外国人労働者の定着促進のための協働型受け入れ環境の構築 — 近藤 彩 教授
- ・細胞周期制御型CRISPR/Casシステム構築のための基礎研究 — 近藤 一成 教授

**基礎研究(C)**

- ・谷文晁一門の研究—江戸後期の文人社会における交流を軸として — 鶴岡 明美 准教授
- ・教材開発を目指した高齢者介護施設における新人介護人材育成のプロセスの実態調査 — 大場 美和子 准教授
- ・基礎的包丁操作スキルを習得させるためのバイオメカニクスの根拠と指示方法の明確化 — 秋山 久美子 教授
- ・知的障害者の中長期のキャリア形成が企業活動にたらす効果 — 根本 治代 准教授
- ・中小食品製造企業における営業担当者の人材育成に関する研究 — 清野 誠喜 教授
- ・近代移行期、蝦夷地・北海道分館支配に関する歴史情報の復元的研究 — 三野 行徳 専任講師
- ・我が国の中・小学校におけるSTEM教育普及に向けたプログラム開発と人材育成 — 白敷 哲久 准教授
- ・言語マイノリティの医療保障のための患者の権利に関する比較的研究 — 森本 直子 准教授
- ・地域コミュニティとデジタル技術を基盤とした児童学習センター開発に関する実践的研究 — 森 秀樹 准教授
- ・MMSEを用いたレビー小体型認知症の簡易鑑別法：高齢者に負担をかけない新しい評価 — 村山 憲男 准教授
- ・グルタミン酸回収機構を調節する神経細胞とアストロサイトのクロストーク — 林 真理子 准教授
- ・快楽性食飲との関係性からみた抑制機能の操作による摂食行動の変容可能性 — 山中 健太郎 教授
- ・地域コミュニティに基づくメディア・デザイン実践の方法論に関する研究 — 烏海 希世子 専任講師
- ・川端文学におけるアダプテーションの考察—活字から舞台・映像への翻案 — 福田 淳子 教授
- ・ケース学習による異文化協働力育成のための共修型日本語授業の開発 — 池田 玲子 特命教授
- ・多言語多文化社会構築に向けた高大接続のスペイン語教育 — 小倉 麻由子 特命講師
- ・地方史誌研究の基盤形成 — 小田田 章 特命准教授
- ・乳児保育の質向上を支える対話型園内研修の検討：食を通じた包括的な園理解から — 遠藤 純子 准教授
- ・疲労感・軽減効果のある食品成分は「疲労そのもの」を軽減しているのか？ — 渡辺 睦行 教授
- ・古英語作者不詳聖人伝作品群における女性像：テキストと言語の基礎的研究 — 島崎 里子 准教授
- ・内モンゴルにおける現代モンゴル文学の文献学的研究—1940年代を中心に— — 呼和巴 特爾 教授
- ・日本人英語学習者の語彙学習モデル構築：基本動詞と定型表現ネットワーク化と意味拡張 — 園分 有穂 准教授
- ・林彰事件に関する実証的研究 — ボルジギン 呼斯勒 教授
- ・日本の一つ屋根型グローバル大学キャンパスの現状と展望—東アジアとの比較から— シム チュン・キャット 教授
- ・保育所における新型コロナウイルス感染症対策の現状と感染症対策チェックリストの開発 — 向笠 宗子 准教授
- ・正しい包丁操作を習得させるためにはファーストコンタクト以前をいかにすべきか — 秋山 久美子 教授

**研究活動スタート支援**

- ・模倣から再創造へ—ルネサンス期イタリアの工房制作とその後世までの批評・受容 — — 永井 裕子 専任講師
- ・大学生のキャリア能力育成を目指したルーブリックの開発 — 齊藤 絵理子 特命准教授

**若手研究**

- ・グローバル時代におけるアジア系移住者のトランスナショナルな教育行動と都市空間 — 申 知燕 専任講師
- ・イノベーションの支援者と企業家の利害対立発生メカニズム：利害の経時的変化への注目 — 三浦 紗綾子 専任講師
- ・19世紀プロイセンにおけるミュージアム政策の教育思想史的研究 — 伊藤 敦広 専任講師
- ・子育て家庭に対するソーシャル・サポートが保護者及び子どもに与える効果の検証 — 野崎 茉莉 専任講師
- ・再評価による感情制御の経験が評価コンピテンスの形成に与える影響 — 榎原 良太 准教授
- ・多様な情報社会の生成過程を描く：ブータンにおけるビデオゲーム普及と手がかりとして — 藤原 整 特命講師
- ・経営者の経営活動を支える補佐機能に関する研究 — 伊勢崎 綾 特命講師
- ・自然かつ快適に身体を動かすことのできる音楽の特徴解明と楽曲への具現化 — 池上 真平 専任講師

**国際共同強化B**

- ・「チンギス・ハーン」の長城に関する国際共同研究基盤の創成 — ボルジギン 呼斯勒 教授

**食品安全**

- ・新たなバイオテクノロジーを用いて得られた食品の安全性確保とリスクコミュニケーションのための研究 — 近藤 一成 教授

swu.ac.jp

@swu\_official

@ShowaJoshi

@insta\_swu



# GLOBAL

昭和女子大学には、  
グローバルマインドを育む環境が整っています。



## 坂東真理子総長特別講義 「アジア協定校、イラン訪問～アジア、 中東 視察を終えて」に学ぶ

坂東真理子総長は5月アジアの協定校を視察。6月にはイランの首都テヘランを訪問した。その経験をふまえて7月、グローバルビジネス学部1年生を対象に、特別講義「アジア協定校、イラン訪問～アジア、中東 視察を終えて」を行った。

坂東総長が訪問した協定校は、タイのチェンマイ大学(協定締結2017年)、ベトナムのベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学(2000年)、日越大学(2022年)、貿易大学(2023年)、マレーシアのマラヤ大学(2022年)の5校で、いずれも各国の名門大学だ。チェンマイ大学、ハノイ人文社会科学大学は、直近5年間にそれぞれ昭和女子大学から40人以上の学生を派遣している。後者にはかつて本学大学院に留学していたファン・ハイ・リン先生が在籍している。また、イランでは、テヘラン大学と名門国立女子大学のアルザラフ大学で講演を行った。

受講した学生から寄せられた感想を紹介する。

### 特別講義を聞いて

会計ファイナンス学科 妹尾和紗

先日、母校の高校を訪れたところ、女子はスラックス・ネクタイの着用が可能になり、実際に着用している生徒も見かけました。このように、今日ではジェンダー平等という言葉をよく耳にします。しかし、別の角度から見ると、国会議員は男性の方が多く、いまだに日本では女性の首相が誕生していないことなど、特

に政治に関して、日本は遅れています。坂東先生が講義の中で示された、各国の男女差別を数値化したGGGI(世界男女格差指数)では、日本は146か国中125位で、政治・経済の分野では最下位のクラスでした。

お話を聞いて驚いたのは、アジアの中でも南北で全く異なった考え方を持っていることです。東南アジアでは、女性が働くことが当たり前であり、暮らしを支えているそうです。私は両親を見てきて、真逆な考え方だったので驚くと同時に、根深い問題であると感じ、義務教育の過程で世界にも目を向け、男女差別の思考をなくしていかなければいけないと思いました。

そして数十年後、子どもたちが大きくなって進路を決める時、性別による格差がない状況を作らなければ、日本のGGGIは衰退する一方であると感じました。

その他、アジアの協定大学のこと、遠いイランのお話、今日のグローバル人材に関することなど興味深い講義でした。

私は物事を考える時、自分の身近なことを基準に考えていました。しかし、今回の講義で自国以外のことを学び、自分の視野が狭いことに気づかされました。海外に行く機会があると、観光地を訪れることに重点を置いていましたが、歴史や文化を調べて行くこと、現地の方とも交流して、日本との共通点や相違点を見つけることも必要だと考えました。

## 日中韓プログラムで得る 成長と絆

学報委員 水野真結 高橋和奏

昭和女子大学と上海外国語大学(中国)、誠信女子大学校(韓国)の3大学による日中韓プログラム「Asian Women's Leadership Program」が8月7日から28日にかけて、3か国で開催された。3年前からプログラムを担当する国際交流センター(CIE)職員・マクナマラ翔子さんに話を聞いた。

### 講義と文化交流で 相互理解

日中韓プログラムは「アジアの女性におけるリーダーシップを学ぶ」をテーマに、各大学から学生10人ずつ計30人が参加して交流する。学生たちは中国、韓国、日本の順に1週間ずつ滞在し、異文化理解を深める。本学は2017年からプログラムに加わり、新型コロナの影響で昨年までの3年間はオンライン開催という制約が生まれてしまっていたが、今年は4年ぶりに対面での開催が叶った。

プログラムは、授業と文化交流の2つの柱で構成されており、全行程を通じて共通言語である英語を使用する。授業では、各国でリーダーシップに関する講義を受け、グループワークやプレゼンテーションを通して多角的にリーダーシップについて理解を深めた。

文化交流では、中国でジーバイを食べたり、韓国でチマチョグリを着たりと、各国ならではの文化を体験した。加えて、ホスト国の学生たちが主体的に企画したフィールドトリップで、互いの文化への理解を深め合った。



### 日本ラウンドについて

日本ラウンドは、昭和女子大学で8月21日から28日まで開催された。「メディアから見るリーダーシップ」をテーマに、メディアにおける女性の象徴、アニメの影響などについて講義が行われた。

講義は、韓国・中国の学生が日本の知識をつけて文化体験を楽しめるよう工夫されていた。多くの学生がジブリを知っていたが、知らない学生も講義でジブリ映画を知り、ジブリ美術館を楽しむことができた。

文化交流では、浴衣の着付けや茶道を体験した。フィールドトリップは、日光への日帰りバスツアーを企画し、事前に見どころについて調べて現地を案内するなど、日本を知ってもらうために心を配った。

日本と韓国は授業のスタイルが似ており、学生についても比較的受動的な様子が見受けられるのに対し、中国の学生は非常に積極的な印象があった。が、中国ラウンドと韓国ラウンドを経て、学生は日本を知ってもらいたい、



## TUJの学生と学ぶ日本の伝統文化

歴史文化学科では2023年度から、敷地内にある米国ペンシルベニア州立テンブル大学ジャパンキャンパス(TUJ)の学生をはじめとする留学生の定員枠を確保して、科目等履修生として受け入れている。対象は「伝統芸能実習(夏季集中)」「伝統文化の現場(前後期)」「Japanese Museum and Art Collections(後期)」の3科目。国内外の学生が日本の伝統文化をともに学び、グループワークを通じて、文化や価値観、視点の違いや共通点などを理解することを目指す。

### 人形浄瑠璃の実技を習得して上演

このうち、夏季集中講義「伝統芸能実習」が8月1日から3日間、国指定重要無形民俗文化財

ならないと思い、申し込んだ。今まで人形浄瑠璃の人形を実際に見たり、触れたりしたことはなかったのに興味を持っていた。

3日間の実習では、人形を操るチャンスがあり、私は『五郎』という人形の、足を操る役割を与えられた。正直に言うと、人形を操ることは非常に難しかった。10〜12キロの人形を持って、同じ姿勢を10数分維持したり、人形を動作させたりすることは非常に大変だった。このような動作になれていないため、全身筋肉痛になった。しかし、新体験の苦痛はそれほど重要ではない。普段、学べないことを学んだのだから。SWUの学生と一緒に同じ目標に向かって学んだ。このような貴重な機会を逃しては

### 「五郎」の足を操って 筋肉痛に

私は「伝統芸能実習」という夏季集中講座に参加した。この授業では人形浄瑠璃について学んだ。このような貴重な機会を逃しては

ツアーで喜ばせたいという思いが強まり、日本ラウンドが終わるころには学生の自主性が強まった。

### 生活をともにする意義

本学で、プログラムを締めくくる最終プレゼンテーションが行われた。3か国から2人ずつ計6人の混合メンバーによる5チームがそれぞれテーマを設定して、プログラムの学びを踏まえて発表した。

プレゼンテーションの上達といった実践的なスキルアップも見られたが、それ以上に、短時間で人間関係などの悩みを乗り越え、互いの理解を深め合った学生たちは精神的にも大きく成長を遂げた。

政治の世界では見解の相違も報じられる3か国だが、学生同士の交流においては全く関係ない。数多くの留学プログラムがそろった本学だが、マクナマラさんは「同世代の異なる文化の学生たちと短期間とはいえ生活を一緒に過ごして、ときにぶつかり合いながらお互いに深く知り合えるのがこのプログラムの特徴で、とてもお勧め」という。このプログラムは学科を問わず誰でも応募できる。英語力の基準がTOEIC700点以上と高いが、「英語力向上だけではなく成長ができる場」に、参加を検討してはいいかならうか。



経験だった。

一方で、楽しいことも経験した。最も印象に残っているのはストーリーを創作する活動である。最初、私はくだらない話を提案したが、修正してよい物語になり、すばらしいと思った。この授業は、専門用語が多かったが、SWUの学生たち、TAの村松(直美)さん、大谷津(早苗)先生は辛抱強く理解できなかった言葉の意味を説明してくださり、たいへん感謝している。今回の実習を通してさまざまなことを学ぶことができた。学んだことは一生忘れない。良い勉強であった」

### 通訳サポートで 得たもの

また、通訳サポートを担当した英語コミュニケーション学科の村松直美さんは、次のような感想を寄せた。「人形に触れ、動きなどを体験することで、英語での説明をより具体的にすることができた。古語や文楽の専門用語を英語に訳すことは容易ではなく、通訳の難しさをも経験することができた。と同時に、この伝統芸能実習の通訳体験を通じて、伝統芸能の魅力にも触れることができた。言葉だけではなく、仕草や表情など多様な動作で人形の動きがなり立っており、現代では使われない自分の自信を見せつける演技の型・動作など、細かい感情表現を伝える際の表現、単語選びの難しさも痛感した」

## 学生プロジェクト

### 戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト

#### 10年以上かけて整理してきた被団協関連文書

歴史文化学科では、2012年度からノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会と協働し、のべ100名以上の学生が被団協関連文書の史料整理に取り組んできました。被団協関連文書とは、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)を中心に活動してきた被爆者たちの戦後の歩みを伝える史料群であり、苦難の道を歩みながらノーモア・ヒバクシャを訴え続けてきた被爆者たちの思考と行動の展開を現在に伝える貴重な史料群です。

2018年度には、7,000点近くに及び史料整理の目的が果たすことを受け、被爆者の戦後の歩みを共同研究する目的で「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」(以下、戦後史PJ)を立ち上げました。現在は明治学院大学、東京大学も含む12名の学生が共同研究に動いています。

#### 学生の活動(整理から研究へ)

生の史料から歴史像を構築し、毎年学内外で研究発表する戦後史PJの活動は、学生たちにとって絶好の学問実践の場となってきました。特に大きな成果が、2021年度秋の特別展「被爆者の足跡—被団協関連文書の歴史的研究から—」(昭和女子大学光葉博物館にて、右上ポスター)です。展示は60枚以上のパネル、100点以上の実物資料から構成され、原爆投下の「あの日」だけでなく、被爆者たちの「その後」に注目する内容に、学外からも大きな反響が寄せられました。その後、活動は戦時期研究へもスピノフし、2023年3月～5月に企画展「世田谷区民が送った兵営生活～栗林一路を例に～」(世田谷区平和資料館)を開催するなど、研究の幅をさらに広げています

#### 秋桜祭でパネル展示

今後の予定としては、今秋の全史料協全国大会で、アーカイブズ分野の優良実践事例として活動報告をおこなうほか、昭和女子大学秋桜祭にてパネル展示を行います。

秋桜祭(学園祭)2023年11月11・12日(土・日)7号館7L02教室「原爆被害者の基本要素」が私たちに問いかけること(仮)プロジェクト担当/松田 忍(歴史文化学科教授)



## CLUB/CIRCLE Introduction

【クラブ・サークル紹介】

昭和女子大学には43のクラブ・サークルがあります。その中から2つの運動系クラブを紹介します。

### “初心者から楽しめる” フィギュアスケート部 学報委員 石塚そよか 池嶋透子

フィギュアスケート部に所属する健康デザイン学科4年秋山友菜さん(2022年度部長)と現代教養学科3年崎嶋日菜子さんにインタビューしました。

#### フィギュアスケート部について 紹介をお願いします。

秋山さん:昔から習っている方と大学に入学してから始める方の2パターンがいて、一緒に活動しながらそれぞれのペースで上達を目指していく部活です。主に、南船橋にあるスケート場で練習しています。合宿では、群馬県のスケート場、発表ではKOSE新横浜アイスアリー

ナを使っています。

#### 初心者はどのように 練習を進めていくのですか？

秋山さん:私たちの部活は、選手部門・初心者上達部門・初心者趣味部門の3部門で構成しています。趣味部門では、スケートをやりたい時ややりたい技があった時にきまみに練習します。上達部門は初級資格を取って大会に出場します。私自身は選手部門として活動中です。日菜子さんは4月に初級を取り、2月に大会に出場したよね。初心者の方は、まず靴の履き方から練習して、最初は掴まりながら滑ります。インストラクターをお願いしている瀬尾茜先生に基礎を教えていただいたり、経験者からアドバイスをもらったりして練習して



おり、経験者同士も教えあって切磋琢磨しています。また、私たちの部活では大会出場を目指して練習に励んでいます。

#### どれくらいの頻度で活動しますか？

秋山さん:今の1年生は週1くらいで練習しています。部活の方針としては学業を優先していて、年明けやテスト期間にはレッスンはなく、学業と両立しやすい環境を作っています。

### “楽しく切磋琢磨しあって成長 する”陸上競技部

学報委員 轟由希子 尾形芹香

陸上競技部の選手、大出真由さん(健康デザイン学科3年)とマネージャーの土屋美香里さん(心理学科3年)にインタビューしました。



#### 主な活動内容は？

大出さん:月曜日、水曜日、土曜日に活動します。月曜日は17時半から、水曜日は14時半から、土曜日は9時から練習しています。短距離は東京工業大学のグラウンドか織田フィールド(代々木公園陸上競技場)、長距離は織田フィールドか駒沢公園で練習しています。

#### 学業との両立は可能ですか？

大出さん:週3日以外に部活はないので、それ以外でアルバイトをしたり勉強をしたり、それぞれの時間を上手く使っています。期末試験期間も通常通り行っています。

#### マネージャーは選手と同じように 活動するのですか？

土屋さん:マネージャーは月曜日は活動がな

く、水曜日と土曜日の週2日で活動しています。練習場所がそれぞれ違うので、それぞれの練習場所へ行ってサポートしています。

#### 初心者でも入部は可能ですか？

土屋さん:可能です。今年度の1年生で、そもそも選手として初めて短距離に挑戦している部員がいます。大会にも出場しました。

#### 陸上競技部の魅力は？

大出さん:私は長距離をやっていて、同じ種目の人がいるから自分も頑張れます。同期や先輩、後輩が大会で良い結果を出していると、私も頑張ろうと鼓舞してもらえます。陸上は個人競技ですが、集団でいることでお互い刺激あって切磋琢磨でき、仲間の大切さを日々感じています。